

## 第2章 障害福祉施策の現状



## 第2章 障害福祉施策の現状

### 1. 障害のある人の状況

#### (1) 身体障害者手帳所持者数の推移

身体障害者手帳の所持者数は、平成26年度には4,585人となっており、平成22年度に比べ111人減少しています。

【身体障害者手帳所持者数の推移】

(人)

区 分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
身体障害者手帳 所持者数	4,696	4,668	4,658	4,602	4,585

(各年度4月1日現在)

#### (2) 年齢別身体障害者手帳所持者数

身体障害者手帳所持者数は、平成26年4月1日現在で、4,585人となっています。また、18歳未満の児童における人口割合は0.38%、65歳以上の高齢者における人口割合は11.72%と、年齢が高くなるほど、各年齢人口に対する割合は高くなる傾向にあります。

【年齢別身体障害者手帳所持者数】

区 分	手帳所持者数(人)	年齢別人口割合(%)
0～19歳	76	0.38
20～39歳	173	0.75
40～59歳	581	2.25
60～79歳	2,108	7.97
80歳以上	1,647	16.41
合 計	4,585	4.36
備考：児童及び高齢者の年齢別身体障害者手帳所持者数		
児童(0～18歳)	72	0.38
高齢者(65歳以上)	3,375	11.72

総人口に対する身体障害者手帳所持者の割合

(平成26年4月1日現在)

#### (3) 等級別身体障害者手帳所持者数

等級別にみると、1級の割合が29.26%で最も高く、身体障害のある人の約3分の1を占めています。また、1級、2級の重度の障害のある人の割合が43.41%となっています。

【等級別身体障害者手帳所持者数】

区 分	手帳所持者数（人）	構成比（％）
1 級	1,342	29.26
2 級	649	14.15
3 級	664	14.48
4 級	1,299	26.15
5 級	321	7.00
6 級	310	6.76
合 計	4,585	100.0

（平成 26 年 4 月 1 日現在）

（4） 障害の種類別身体障害者手帳所持者数

障害の種類を見ると、肢体不自由のある人が 55.94%で半数を超えています。次に内部障害のある人も 28.57%と多くなっています。

【障害の種類別身体障害者手帳所持者数】

区 分	手帳所持者数（人）	構成比（％）
肢体不自由	2,565	55.94
内部障害	1,310	28.57
聴覚障害	373	8.13
視覚障害	296	6.45
音声言語	41	0.89
その他	0	0
合 計	4,585	100.0

（平成 26 年 4 月 1 日現在）

（5） 療育手帳所持者数の推移

療育手帳所持者数は、平成 26 年度には 843 人となっており、平成 22 年度に比べ 94 人増加しています。

【療育手帳所持者数の推移】

（人）

区 分	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
療育手帳所持者数	749	759	794	802	843

（各年度 4 月 1 日現在）

（6） 年齢別療育手帳所持者数

療育手帳所持者数は、平成 26 年 4 月 1 日現在で 843 人となっています。若年層ほど人口

割合が高い傾向にあります。また、18歳未満の児童においては1.22%、65歳以上の高齢者においては、0.26%の人口割合になっています。

【年齢別療育手帳所持者数】

区分	手帳所持者数(人)	年齢別人口割合(%)
0～19歳	245	1.23
20～39歳	265	1.16
40～59歳	206	0.79
60歳以上	127	0.34
合計	843	0.80
備考：児童及び高齢者の年齢別療育手帳所持者数		
児童(0～18歳)	231	1.22
高齢者(65歳以上)	76	0.26

総人口に対する療育手帳所持者の割合

(平成26年4月1日現在)

### (7) 障害の程度

障害の程度をみると、Aの最重度、重度の人の割合が32.5%、Bの中度、軽度の人<sup>6</sup>が67.5%となっています。

【障害の種類別療育手帳所持者数】

区分	手帳所持者数(人)	構成比(%)
A(最重度、重度)	274	32.5
B(中度、軽度)	569	67.5
合計	843	100.0

(平成26年4月1日現在)

### (8) 精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移

精神障害者保健福祉手帳所持者数は、増加傾向にあり、平成26年度には556人で平成22年度に比べて140人増加しています。

【精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移】

(人)

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
精神障害者保健福祉手帳所持者数	416	446	483	516	556

(各年度4月1日現在)

### (9) 年齢別精神障害者保健福祉手帳所持者数

精神障害者保健福祉手帳所持者数は、平成 26 年度の 4 月 1 日現在 556 人となっています。年齢別でみると、40～59 歳が年齢別人口割合 0.89%と、最も高くなっています。

【年齢別精神障害者保健福祉手帳所持者数】

区 分	手帳所持者数(人)	年齢別人口割合(%)
0～19 歳	11	0.05
20～39 歳	105	0.46
40～59 歳	230	0.89
60 歳以上	210	0.57
合 計	556	0.52
備考：児童及び高齢者の年齢別療育手帳所持者数		
児童(0～18 歳)	11	0.05
高齢者(65 歳以上)	144	0.5

総人口に対する精神障害者保健福祉手帳所持者の割合  
(平成 26 年 3 月 31 日現在)

### (10) 障害の程度

障害の程度をみると、2 級が最も多く、64.6%となっています。

【障害の種類別精神障害者保健福祉手帳所持者数】

区 分	手帳所持者数(人)	構成比(%)
1 級	113	20.3
2 級	359	64.6
3 級	84	15.1
合 計	556	100.0

(平成 26 年 3 月 31 日現在)

### (11) 自立支援医療費(精神通院)公費負担者数の推移

自立支援医療による精神通院者数は、増加傾向にあり、平成 26 年度には 1,348 人で平成 22 年度に比べて 119 人増加しています。

【自立支援医療による精神通院者数の推移】

(人)

区 分	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
自立支援医療精神通院者数	1,229	1,209	1,467	1,201	1,348

(各年度前年度の 3 月 31 日現在)

## (12) 難病患者の状況

難病患者数全体では平成26年度には1,134人となっており、平成22年度に比べて362人増加しています。小児慢性特定疾患患者数については、ほぼ横ばいになっています。

【難病患者数の推移】 (人)

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
特定疾患認定患者数	692	718	963	1,004	1044
小児慢性特定疾患患者数	80	81	82	77	90
合計	772	799	1,045	1,081	1,134

(各年度4月1日現在 26年度のみ12月1日現在)

## 2. 障害のある児童の状況

## (1) 療育の状況

障害児支援については、身近な地域で支援を受けられるようにする等のため、平成24年4月から現行の各障害別に分かれた施設体系に再編され、児童デイサービスは、児童発達支援と放課後等デイサービスに移行し、利用者数は増加傾向にあります。

本市では、療育機関が少ないことから、直営でも療育事業を行っています。

障害のある児童がその個性を輝かせることができ、安心して子育てができる地域にするため、民間事業所と連携し、療育訓練・療育相談に取り組んでいます。

【療育事業の状況】

区分		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
児童デイサービス	月毎件数合計(人)	1,597	2,067	2,142	-	-
	延件数合計(人)	3,397	4,546	4,564	-	-
児童発達支援	月毎件数合計(人)	-	-	-	1,702	1,870
	延件数合計(人)	-	-	-	5,627	6,168
放課後等デイサービス	月毎件数合計(人)	-	-	-	622	674
	延件数合計(人)	-	-	-	1,139	1,950
療育相談(市直営分)(件)		212	158	163	198	138

保育所での障害のある児童の受け入れは、平成26年度4月1日現在、22箇所の保育所に障害のある児童72人が通っており、集団保育を受けています。

保育所数（箇所）	障害のある児童が通っている	障害のある児童数（人）
	保育所数（箇所）	（保育士加配対象児数）
公立 5（委託 2 箇所を含む）	3	重度 1、軽度 17
私立 23	19	重度 4、軽度 50

（平成 26 年 4 月 1 日現在）

## （2） 幼児に対する発達支援の状況

乳幼児健康診査・育児相談などを通して、経過を見ている幼児と、親が相談をしたいという幼児を対象に、ことばの相談等を行っています。親が幼児の特徴を把握するとともに育児の力をつけるための支援をしています。

### 【健康増進課 ことばの教室利用状況】

区 分		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
ことばの相談	開催回数（回）	21	24	24	24	24
	相談者数（人）	67	70	58	82	70
経過観察児教室 ドレミ・ドレミ#	開催回数（回）	24	24	24	24	24
	相談者数（人）	75	74	62	77	67
経過観察児教室 ステップ	開催回数（回）	12	12	12	17	24
	相談者数（人）	33	31	25	48	66
発達相談	開催回数（回）	24	23	16	12	12
	相談者数（人）	55	53	39	31	22

### 【西小学校 通級指導教室利用状況】

区 分		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
通級指導教室	幼児	教育相談（件）	45	30	31	58
			29	30	55	21
	小学生	通級（人）	17	19	14	13
			46	42	48	56

## （3） 就学の状況

近年、特別支援学級の設置が進んでいます。就学児童生徒の特別支援学級へ在籍する状況をみると、全市的に自閉症・情緒障害学級への在籍が増加傾向にあります。



## 【障害別児童生徒・特別支援学級（通級指導教室）の状況】

区 分	小学校								中学校				
	児童数（人）							学級数 （教室）	生徒数（人）				学級数 （教室）
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計		1年	2年	3年	合計	
知的障害	11	7	13	20	18	18	87	23	13	15	10	38	9
自閉症・情緒障害	22	22	24	22	26	27	143	30	20	12	10	42	9
聴覚障害	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
視覚障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
肢体不自由	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病弱 （津山中央病院内学級）	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
通級指導教室（言語）	4	8	2	1	1	0	16	1	0	0	0	0	0
通級指導教室（情緒）	12	22	12	6	3	10	65	4	1	0	5	6	1
合 計	49	60	51	49	49	55	311	60	34	27	25	86	20

（平成26年5月1日現在）

## 【特別支援学校の状況】

（人）

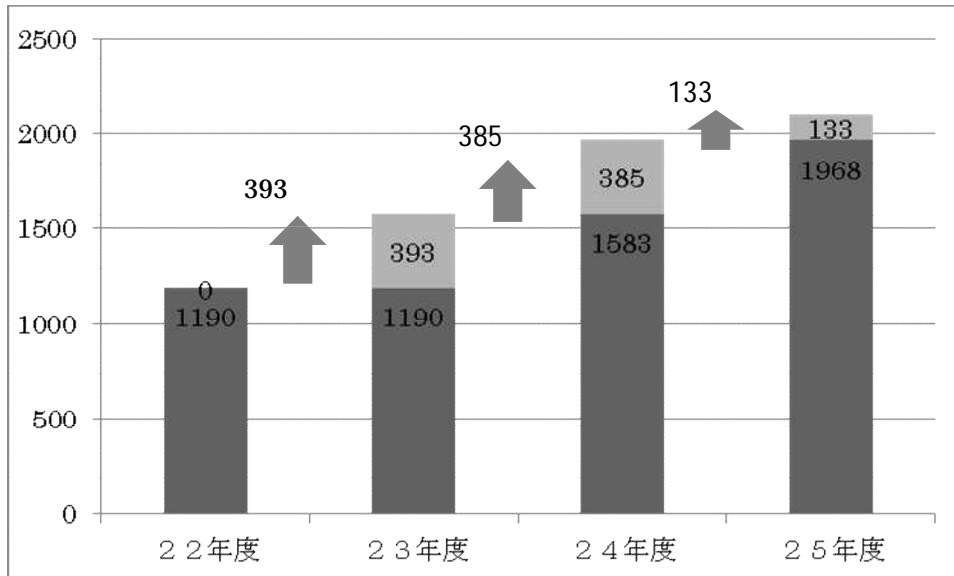
障害児学級の種類	通学児童・生徒数
小学部	36
中学部	29
高等部	117

岡山盲学校・岡山支援学校・誕生寺支援学校（平成26年5月1日現在）

## 3. 障害福祉施策の状況

本市の障害福祉施策関連事業費は、障害者数の増加に伴い各種障害福祉サービスの利用が増加しており、主な給付費について平成22年度と平成25年度の事業費を比較すると約9億1千万円増加しています。主な要因としては、日中活動系の施設サービス利用者数の増加や児童通所サービス利用者数の増加等があげられます。

## 障害福祉事業費の推移



(注) 事業額は、主な事業の決算額の合計

## 事業費の伸びの内訳

単位: 百万円

	22年度	22 23年度	23 24年度	24 25年度
障害福祉サービス (居宅介護、施設入所、GH、就労継続等)	855	359	379	125
児童通所支援 (児童サービス、発達支援、放課後デイ等)	27	3	28	15
地域生活支援事業 (補装具、日常生活用具、日中一時支援)	59	7	0	9
医療給付 (自立支援医療、重度心身障害者医療)	249	24	22	16
<b>事業費合計</b>	<b>1,190</b>	<b>393</b>	<b>385</b>	<b>133</b>